

3 九 生 第 2 5 1 6 号

令 和 4 年 1 月 2 5 日

熊 本 県 農 林 水 産 部 長 殿

九 州 農 政 局 生 産 部 長

国 際 的 な コ ン テ ナ 輸 送 の 需 給 逼 迫 等 を 背 景 と し た 輸 入 粗 飼 料 の 供 給 状  
況 に 対 応 し た 技 術 指 導 の 徹 底 に つ い て

こ の こ と に つ い て 、 令 和 4 年 1 月 2 1 日 付 け 3 畜 産 第 1 5 3 2 号 を も っ て 畜 産 局 畜 産  
振 興 課 長 及 び 飼 料 課 長 の 連 名 に よ る 通 知 が あ り ま し た の で 、 御 了 知 い た だ く と と  
も に 、 貴 県 下 に お い て 技 術 指 導 を 図 っ て い た だ き ま す よ う お 願 い い た し ま す 。

担 当 : 生 産 部 畜 産 課

畜 産 物 流 通 指 導 官 川 端

直 通 : 0 9 6 - 2 1 1 - 9 1 1 1 ( 代 )

3 畜産第1532号  
令和4年1月21日

九州農政局生産部長 殿

畜産局畜産振興課長  
飼料課長

国際的なコンテナ輸送の需給逼迫等を背景とした輸入粗飼料の供給状況に対応した技術指導の徹底について

最近の粗飼料の輸入を巡っては、令和2年後半以降の中国から米国向けのコンテナ輸送の急拡大や乾牧草の主要輸出港である北米西海岸の港湾における貨物の滞留等を背景として輸入遅延等が発生しました。特に米国からの輸入量が昨夏以降減少したため、カナダや豪州からの輸入で代替することにより、令和3年の年間の粗飼料輸入量は前年並となったものの、不安定な供給状況が生じています。

このため、輸入粗飼料への依存度が高い一部の地域から、粗飼料の安定供給を求める声が寄せられています。

世界的なコンテナ物流の状況等を踏まえると、当面は粗飼料の輸入遅延の改善が見込めず、需給も逼迫基調で推移する可能性があるため、粗飼料の安定的な確保のために留意すべき事項について、下記のとおりとりまとめましたので、貴局管内各県に対し、各県内の牛の飼養者、飼料輸入事業者、関係団体等に技術指導の徹底を図るよう依頼願います。

なお、この通知は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第245条の4（技術的な助言）に基づくものです。

## 記

### 1 牛の飼養者による取組について

#### （1）粗飼料給与に係る一般的事項

- ① 給餌は一度に行わず、1日数回に分けて給餌し、残飼が生じないように努める。
- ② 入手可能な粗飼料への切り替えを行うとともに、必要に応じ飼料設計の見直しを行う。
- ③ 飼料の適切な保管に努め、損耗を防止する。
- ④ 農場残さや食品残さ等の未利用資源を活用する。その際、飼料の安全

性の確保及び品質の改善に関する法律（昭和 28 年 4 月 11 日法律第 35 号）等関連法規に適合していることを確認する。

(2) 当面の粗飼料確保に向けた取組

- ① 仕入先の分散を図り、調達ルートを多様化する。また、粗飼料の流通状況を踏まえ買い占めは行わない。
- ② 田植え前の水田の有効活用等により、エン麦やイタリアンライグラス等を初春に播種するなど、早期に収穫可能な牧草等の作付けにより当面の粗飼料を確保する。
- ③ 稲わらの収集・活用を図る。
- ④ 通常使用している輸入粗飼料の草種が供給不足となった場合の代替飼料について、その影響も含め予め検討しておく。
- ⑤ 配送コンテナを早期に返却する。

(3) 国産飼料の増産に向けた中長期的な取組

自己所有地、借地等を有効活用し、二期作等も検討しつつ可能な範囲で青刈り作物等を栽培し、又は耕種農家や飼料生産組織に生産を依頼することにより、自給飼料生産の開始、作付けの拡大に努める。

2 飼料輸入事業者等による取組について

- (1) 仕入先の分散を図り、調達ルートを多様化する。
- (2) 植物防疫や動物検疫のルールに留意しつつ、輸入先国の多角化を図る。
- (3) 牛の飼養者との話し合いにより、
  - ① 通常供給している輸入粗飼料の草種が供給不足となった場合の代替飼料の提案について、その影響も含め予め検討しておく。
  - ② 粗飼料の在庫状況を把握し、輸入粗飼料の到着遅延にも対応できるよう適切な在庫の確保に努める。
- (4) 粗飼料不足が生じた際に、供給余力のある生産者や地域から融通が可能となるよう飼料販売事業者間、飼料輸入事業者間における地域の垣根を超えた調整をしておく。
- (5) 供給余力のある飼料販売事業者等は、代替飼料も含め融通可能な情報を積極的に牛の飼養者や他の飼料販売事業者等に提案する。

3 都道府県、生産者団体等による取組について

- (1) 上記 1 及び 2 の取組について、都道府県及び生産者団体は、それぞれの組織において耕種部門と連携し、情報共有や技術指導、畜産農家と耕種農家とのマッチング、広域的な地域間調整など、積極的に協力し、飼料自給率向上の取組を強力に推進する。
- (2) 給与飼料の内容の見直し等の飼料効率向上のための技術的助言を行う。
- (3) 人・農地プラン作成の機会等を利用し、飼料生産基盤となり得る耕作放棄地や転作を検討する水田、後継者のいない農地、公共牧場や畜産試験場

の未利用草地・放牧地、空港・河川敷・公園等の公有地などの土地資源の洗い出しを行う。

- (4) 基盤整備等による草地の生産性向上や排水性の改善等による農地の生産性向上、放牧推進、高栄養価・多収品種の飼料作物の導入、コントラクターやTMRセンター等の飼料生産組織の育成・機能強化、スマート機器の導入等を通じて、洗い出した土地資源や既存の飼料生産基盤を最大限活用し、飼料作物の生産・供給を拡大する。この際、活用可能な予算の紹介など、適宜相談ありたい。

<参考資料>

- 輸入乾牧草の輸入・価格動向、稲わらをめぐる状況、植物検疫統計
- 飼料関係予算（下記URL参照）

[https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/shiryo/jikyuu\\_siryoyosan/siryoyokannkeiyosann.html](https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/shiryo/jikyuu_siryoyosan/siryoyokannkeiyosann.html)

# 輸入乾牧草の輸入・価格動向

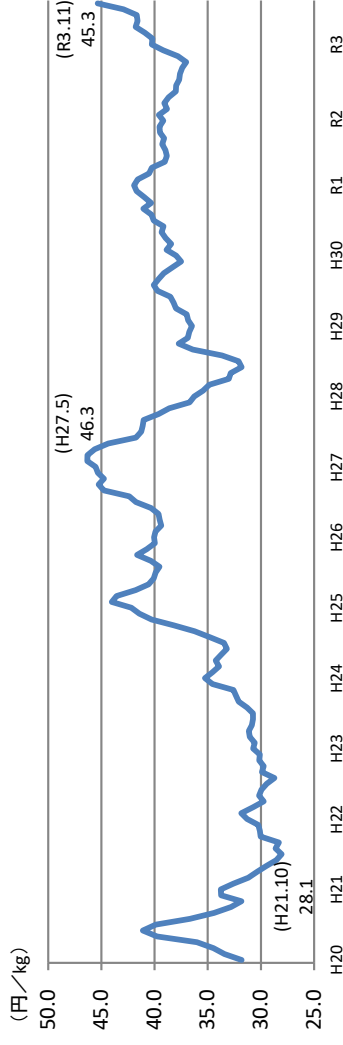
- ・ 乾牧草の輸入量は、年間180万～200万トン程度で推移。輸入先については、米国が7割、豪州が2割、カナダが1割弱と輸入量のほとんどを3カ国で占めている。
- ・ 乾牧草の輸入価格(通関価格)は、直近では、45.3円/kg(令和3年11月現在)となっている。
- ・ 新型コロナウイルスの影響で滞船やコンテナ不足が生じ、コンテナ船の運航が乱れている状況が続いている。

上段: 輸入量(千トン)  
下段: 輸入シェア(%)

## 乾牧草の国別輸入量の推移

年度	米国	豪州	カナダ	その他	うちロシア		合計 (前年比)
					ロシア	ウクライナ	
H24	1,635 (75.2)	353 (16.3)	169 (7.8)	16 (0.7)			2,175 (110%)
H25	1,441 (73.7)	363 (18.6)	133 (6.8)	18 (0.9)			1,955 (90%)
H26	1,319 (72.2)	369 (20.2)	128 (7.0)	11 (0.6)			1,827 (93%)
H27	1,318 (71.9)	380 (20.7)	108 (5.9)	28 (1.5)			1,834 (100%)
H28	1,364 (73.1)	367 (19.6)	106 (5.7)	29 (1.6)			1,866 (102%)
H29	1,362 (70.3)	400 (20.6)	142 (7.3)	34 (1.8)	0.05 (0.0)		1,938 (104%)
H30	1,394 (68.3)	455 (22.3)	146 (7.2)	44 (2.2)	2.85 (0.1)		2,039 (105%)
R1	1,440 (71.3)	403 (19.9)	130 (6.4)	48 (2.4)			2,021 (99%)
R2 (確報値)	1,413 (69.8)	402 (19.9)	156 (7.7)	54 (2.7)	0.05 (0.0)		2,026 (100%)
R3 (4月～11月) (速報値)	899 (65.7)	301 (22.0)	132 (9.6)	36 (2.7)			1,369 (101%)

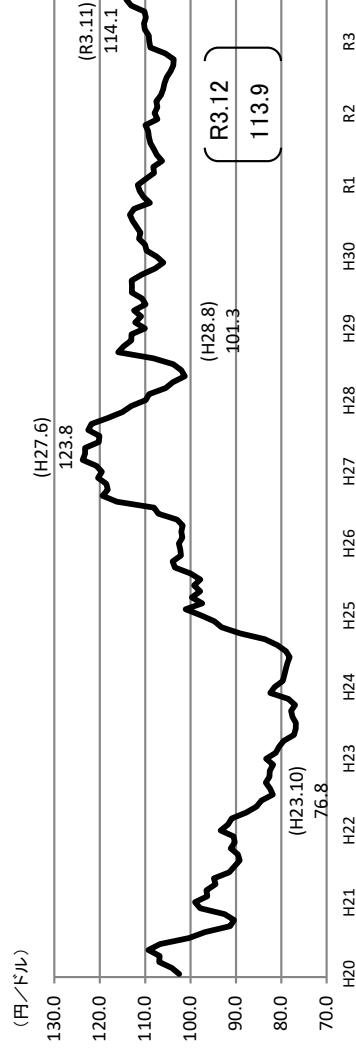
## 乾牧草の輸入価格(通関価格)



資料: 財務省「貿易統計」

注: ペレット・ミール・キューブは除く。

## 為替相場の推移



資料: 日銀為替相場 東京市場 ドル・円スポット 中心相場/月平均

◆ 国別輸入量推移

米国

単位：トン

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
2020年	120,796	113,707	118,795	158,017	131,808	134,690	126,069	100,810	97,909	105,302	118,277	112,916	1,439,097
2021年	86,017	112,103	144,577	165,505	146,110	132,000	100,859	88,706	97,194	87,212	89,184	93,881	1,343,348
前年比	71%	99%	122%	105%	111%	98%	80%	88%	99%	83%	75%	83%	93%
2019年比	69%	96%	115%	134%	105%	110%	72%	79%	93%	82%	72%	74%	92%

豪州

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
2020年	35,489	32,948	38,100	37,166	34,213	33,604	39,617	28,272	24,036	27,732	27,013	40,703	398,893
2021年	31,387	33,659	45,753	41,772	48,331	41,788	33,836	28,400	33,085	36,911	39,427	44,573	458,923
前年比	88%	102%	120%	112%	141%	124%	85%	100%	138%	133%	146%	110%	115%
2019年比	80%	98%	112%	119%	116%	125%	93%	111%	109%	124%	125%	131%	111%

カナダ

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
2020年	8,780	7,484	11,777	12,825	13,481	12,897	10,708	9,001	9,595	11,428	13,447	12,237	133,660
2021年	10,844	13,105	17,264	19,084	16,291	16,552	13,124	11,497	14,500	12,615	18,314	8,269	171,461
前年比	124%	175%	147%	149%	121%	128%	123%	128%	151%	110%	136%	68%	128%
2019年比	111%	137%	135%	173%	130%	168%	116%	155%	164%	146%	188%	74%	140%

その他

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
2020年	239	775	885	957	731	1,304	1,499	1,056	1,231	1,108	875	1,114	11,773
2021年	1,063	1,000	819	1,416	1,357	1,117	1,465	1,110	1,326	1,360	1,207	1,358	14,599
前年比	444%	129%	92%	148%	186%	86%	98%	105%	108%	123%	138%	122%	124%
2019年比	342%	244%	173%	384%	490%	273%	262%	202%	207%	272%	245%	271%	266%

合計

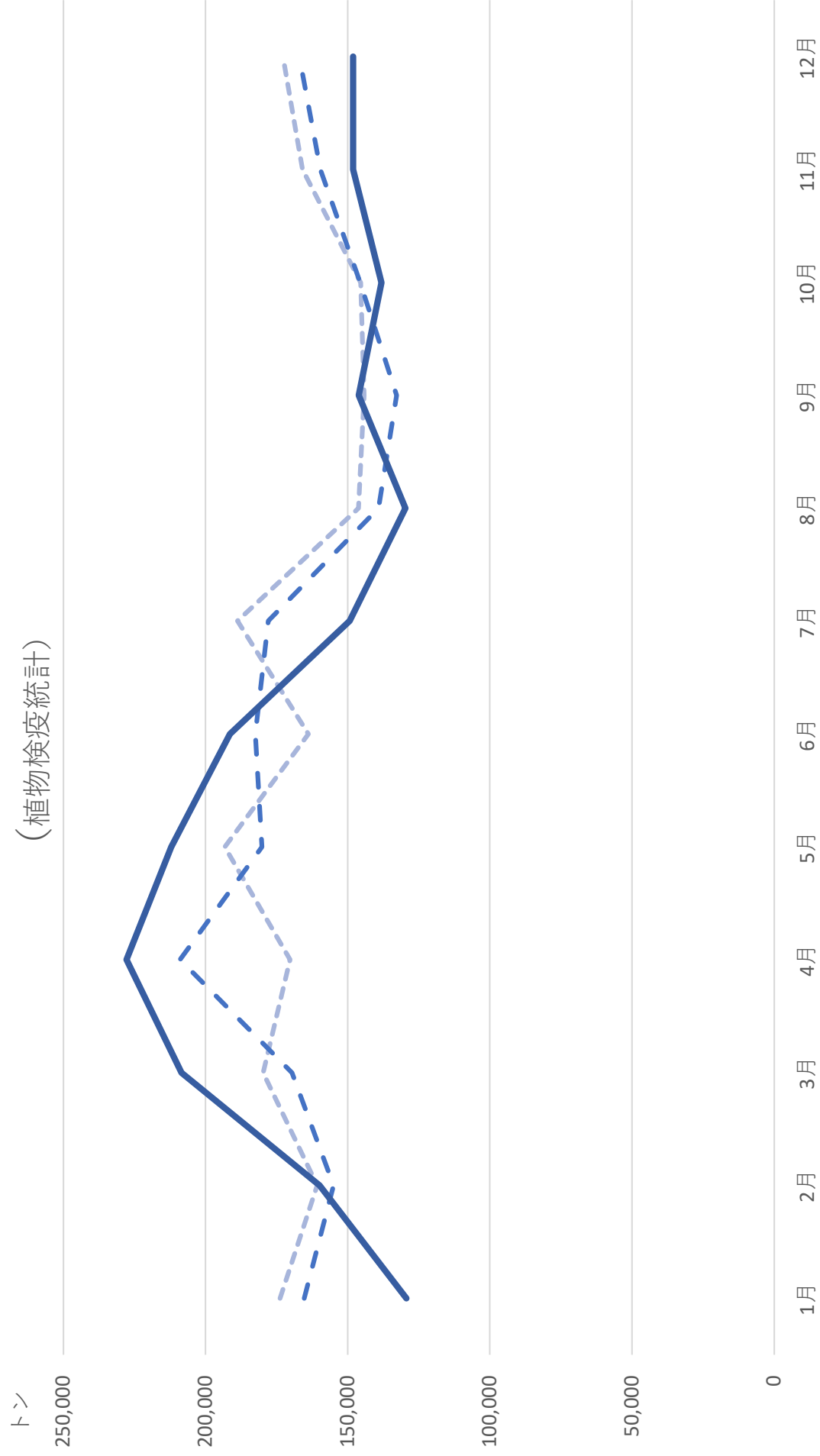
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
2020年	165,304	154,914	169,557	208,965	180,233	182,495	177,894	139,139	132,771	145,570	159,612	166,969	1,983,424
2021年	129,312	159,868	208,412	227,777	212,090	191,457	149,284	129,713	146,104	138,100	148,133	148,081	1,988,331
前年比	78%	103%	123%	109%	118%	105%	84%	93%	110%	95%	93%	89%	100%
2019年比	74%	99%	116%	134%	110%	117%	79%	89%	101%	95%	89%	86%	99%

参考：植物検疫統計

※植物検疫統計の週間数量は日曜日から土曜日を1週間とし、基本2週前の情報が月曜日午前0時～2時までまでに更新される（月の第1週及び最終週は7日に満たないことがある）

# 乾牧草の輸入量推移

(植物検疫統計)



# 国産稲わらをめぐる状況

- 稲わらは、国内生産量の1割弱に相当する約70万トンが飼料利用されているもの、約20万トンを中国から輸入。
- 稲わらの収集に必要な機械の導入や調製・保管施設の整備に対する支援等やマッチングの取組等により国産稲わらの利用の拡大を推進。

## 【R3年度補正】畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業

畜産クラスター計画に位置付けられた地域の中心的な経営体(畜産農家、飼料生産組織等)に対し、国産稲わらの収集に必要な機械の導入等を支援。  
(補助率: 1/2以内)

## 【R4年度(概算決定)】強い農業づくり総合支援交付金

国産稲わら等国産粗飼料の調製・保管施設の整備等を支援。  
(補助率: 1/2以内)

## 【R4年度(概算決定)】畜産生産力・生産体制強化対策事業

### (国産飼料資源生産利用拡大対策のうち未利用資源活用対策)

稲わら等の未利用資源の飼料化に必要な調製・分析、給与実証、器具・機材の導入等の取組を支援。  
(補助率: 1/2以内、定額)

### (飼料生産利用体系高効率化対策のうち飼料生産組織強化対策)

稲わらの収集に必要な機械や保管場所の確保の取組等を支援。(補助率: 1/2以内、定額)

## ○ 国産稲わらのマッチングの取組

ウェブサイトのアドレス

[https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lim/l\\_siryoinawara.html](https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lim/l_siryoinawara.html)

## ○ 中国からの稲わらの輸入量と通関価格

	輸入量(千トン)	通関価格(円/kg)
29年度	209	32.3
30年度	237	29.7
R元年度	219	28.6
2年度(確報値)	237	33.8
3年度(速報値)	146	37.5

資料: 財務省「貿易統計」

## ○ 稲わらの乾燥利用以外の活用(生稲わらサイレージの例)

<特徴>

- ・天候の影響を受けずに調製が可能
- ・β-カロテン(ビタミンA)、ビタミンEの含有量が乾燥稲わらよりも多い(肥育中期の給与に注意)
- ・乾燥稲わらに比べ嗜好性も良い

<留意点>

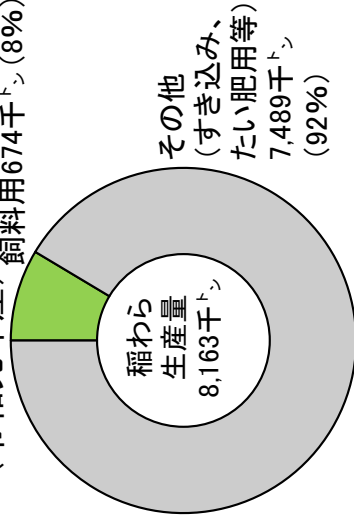
- ・ロール成形時に乳酸菌を添加し、ラッピングすること
- ・開封後は、2日以内で使い切ること

## ○ 国産稲わらの需給状況(単位: 千トン)

区分	飼料仕向量①	輸入量②	飼料需要量③=①+②	自給率①/③
H27年産	784	157	941	83%
H28年産	751	186	937	80%
H29年産	729	223	952	77%
H30年産	691	232	923	75%
R元年産	674	229	903	75%

資料: 飼料仕向量は飼料課調べ(29年産から調査方法を変更)、輸入量は財務省「貿易統計」(10月～翌年9月までの合計)

## ○ 国産稲わらの利用状況(令和元年度)



資料: 飼料課調べ(水稲の作付面積等から推計)



# 中国産稻わら等の輸入数量

単位：トン

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
2020年	20,137	6,604	24,399	23,742	17,346	16,814	18,524	20,883	18,569	19,952	20,465	17,454	224,891
2021年	14,263	24,077	32,619	17,812	16,529	18,451	17,154	18,594	17,569	20,156	24,436	19,929	241,590
前年比	71%	365%	134%	75%	95%	110%	93%	89%	95%	101%	119%	114%	107%
2019年比	60%	148%	194%	95%	90%	122%	102%	110%	86%	89%	110%	92%	105%

出典：植物検疫統計

※植物検疫統計の週間数量は日曜日から土曜日を1週間とし、基本2週前の情報が月曜日午前0時～2時まで更新される

(月の第1週及び最終週は7日に満たないことがある)

# 中国産稲わらの輸入量推移 (植物検疫統計)

トン

35,000

30,000

25,000

20,000

15,000

10,000

5,000

0

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

--- 2018年    - - - 2019年    - - - 2020年    — 2021年

